

令和7年度 小平市立小平第一中学校 学校評価報告書

学校教育目標	1 賢い生徒:学業成績だけでなく、問題解決や自己表現、他者への共感等の力をもった生徒を育成する 2 協働する生徒:よりよい人生や社会の実現に向けて、他者を理解し、協同する力をもった生徒を育成する 3 くじけない心のある生徒: 困難や逆境に出会っても折れない心のしなやかさや回復する心の強さをもった生徒を育成する
---------------	---

目指す学校像(ビジョン)	
【目指す学校像】	・生徒が毎日楽しく通って自分の力を伸ばすことができる ・教職員が働く喜びと誇りをもてる ・保護者が安心・信頼をもち子どもを任せられる ・地域が学校と力を合わせ子どもたちを育てる実感がもてる
【目指す児童・生徒像】	・自分ができたことを認め、自信をもつ ・問題解決や自己実現、他者への共感力をもつ ・よりよい人生や社会の実現に向け他者を理解し協働する心をもつ ・困難や逆境にあっても折れない心のしなやかさや回復する心の強さをもつ ・基本的な生活習慣が身に付いた、心身共に健康な生徒
【目指す教員像】	・よりよい教育活動について考え行動できる ・生徒一人一人を心から慈しみ、生徒のよいところを認め、生徒に自信をつけさせる ・地域保護者と力を合わせ教育活動に取り組む教職員 ・自らの課題を認識し日々研鑽に努め ・成熟した社会人として生徒の範となり教育公務員としての自覚をもった行動ができる ・心豊かな生活を送れるよう余裕をもった仕事を計画的に進められる教員

前年度までの学校経営上の成果と課題

成果 ・学習者用端末の活用、学校図書館の積極的な活用などの工夫を進めたほか、放課後学習教室との連携・活用を進め学力の向上を図ることができた。市の研究推進校として、探究学習についての研究を民間企業とも連携しながら進めていくことができた。

課題 ・不登校生徒への働きかけをさらに組織的に進め、生徒の居場所づくりなど個別最適な対応を行う。探究学習について、各教科での実践を進める。

	具体的方策	第1回評価		指標に基づく成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	「探究学習」を研究テーマに掲げ、効果的な方法について研究しつつ、各学年で実践を重ねていく。	3	3	研究発表を終えての課題を踏まえ、探究学習を普段の学習に取り入れていくために必要な教員のスキルを身に付ける研修を行い、総合的な学習の時間や教科指導の中で探究学習を取り入れ実践を進めることができた。	3	3	探究学習を普段の学習に取り入れていくために教員の方々がスキルを身に付ける研修をされて取り込めたことでもよい。「探究学習」について「課題の立て方が分かる」と回答した生徒が70%以上ということは素晴らしいが、他方で分からない生徒がどの程度のレベルなのか、また分かる生徒はどの程度理解できているか可視化することができるとよい。スタディアアプリの活用が80%以上という数字は素晴らしい。さらに個々に適した活用がされることを期待している。先生対象の研修等にも地域から参加する機会があり、学校と地域が連携した学びの在り方について理解を深めていくべき。	「探究学習」を教科の授業に取り入れていくために、先進的に取り入れている学校の先生を講師に迎えて研修を行い、イメージができたことや、実際に授業に取り入れて行うこととする教師が増えたことは成果である。一方で、探究の課題について、どのようなものに取り組んでよいか分からない生徒などいるため、アンケートなどを実施して生徒の実態を把握することなど次年度の課題として取り組んでいく。
	生徒一人一人の学習の状況を把握し、学習者用端末の活用や補充学習の充実を進める。	3	3	スタディアアプリの活用による授業での指導、家庭学習への取組が進んだ。教科によって活用の状況が異なっていることから、教師の活用を推進するために指導者用の研修を行うことが必要である。	3	3	学習者用端末の活用については、これまで積極的な活用がされていたが、今年度は、スタディアアプリの導入2年目ということもあり、学習支援という視点だけでなく、自主学習という面においてもさらに生徒の活用が進んだことは成果である。家庭学習をさらに充実させるためには今年度実施できなかった教員向けの研修を実施させたい。	学習者用端末の活用については、これまで積極的な活用がされていたが、今年度は、スタディアアプリの導入2年目ということもあり、学習支援という視点だけでなく、自主学習という面においてもさらに生徒の活用が進んだことは成果である。家庭学習をさらに充実させるためには今年度実施できなかった教員向けの研修を実施させたい。
健全育成(いじめ防止)	道徳、特別活動の授業を通じ人権意識の基本を学び、日常的に意識するよう継続的に指導する。	3	3	・こたいら特別活動の日での取組をはじめ、学級内の心理的安全性の維持向上への取組を継続し、人権意識の定着にも効果が見られた。	3	3	人権意識の定着はとも難しい課題であるが、問題行動を最小限とされていることは評価できる。継続して0件を目指してほしい。不登校対策は今後も増加することが予想され、会議を経た取組ではなく、どの程度予防対策を効果的に実施できるかも重要になってくる。また、地域の人と触れ合いを通じた学びの場において、学校経営協議会委員と貢献できる機会があるとよい。スクールソーシャルワーカーの先生から不登校への対応について伺い、理解を深めていくことも大切である。	道徳や特別活動、朝礼や学校だよりなどを通じて、人権意識を高めるような働きかけを行うことができた。問題行動も減少しており、他者へに対する発言や意識なども高まっているように感じている。次年度は、学級編成も変わり、新入生も入学するので、新たな気持ちで、生徒や各家庭に向けて人権意識を高める働きかけをしていく。
	SC、SSW、巡回教員と担当教員による対策会議を毎週開催し、様々な連携した不登校対策を進める。	4	2	・会議の定例開催により、情報の共有と個別の支援に努めた。不登校からフリースクールに移行する生徒が急増したことから、不登校生徒の割合は増加した。	4	3	不登校対策会議を毎週1回実施し、不登校生徒や不登校傾向にある生徒への対応について、丁寧な協議をすることにより、個別の支援を進めることができた。結果的に不登校生徒は増加しているものの、関係諸機関やフリースクールへつながる生徒が増え、これについては成果と捉えている。次年度に向けて校内別室支援などさらに組織的に支援できる体制を整えていく。	不登校対策会議を毎週1回実施し、不登校生徒や不登校傾向にある生徒への対応について、丁寧な協議をすることにより、個別の支援を進めることができた。結果的に不登校生徒は増加しているものの、関係諸機関やフリースクールへつながる生徒が増え、これについては成果と捉えている。次年度に向けて校内別室支援などさらに組織的に支援できる体制を整えていく。
特色ある学校づくり	全校生徒が一定量の読書量をできるような環境を整え、働きかけを進める。	3	4	・学校司書や図書委員会が読書量の向上と学校図書館の貸し出し冊数増加に向けた様々な取組を継続的にを行い、働きかけを進めている。	3	4	読書活動が推進されていることは大変素晴らしい。図書を活用する割合が低いのはPC・タブレットの活用が高いことも影響しているのではないかと、図書を活用する割合を高めるためにも「図書を活用した授業」の促進を期待したい。学校司書や図書委員会の取組により読書量の向上が図られている点は大変意義深い。読書量、図書室の利用頻度を増やすなど、CS委員おすすめの本棚を充実させることで身近に感じてほしい。	一中の伝統として読書活動を推進していることはとても大きなことで、学校司書や図書委員会の取組などを通じて、読書への興味・関心を高めている。読書量と学習者用端末の活用の相互関係については、はっきりしないが、図書の利用を引き続き促していく。
	探究学習の場として学校図書館を活用し、学校図書館の学習センター機能の充実を進める。	3	2	・学習センターとしての学校図書館活用について意識的に取り組む教員が増加している。探究学習の場として活用されるよう、学年ごとに特設の指導を実施した。	3	2	探究学習が進められていく中で、学校図書館を効果的に活用しようとする教師が増えていることは成果であるが、まだまだ十分に活用されているとは言えない。次年度以降も、学校図書館を学習センターとして活用すべく教師間の情報共有なども進めていく。	探究学習が進められていく中で、学校図書館を効果的に活用しようとする教師が増えていることは成果であるが、まだまだ十分に活用されているとは言えない。次年度以降も、学校図書館を学習センターとして活用すべく教師間の情報共有なども進めていく。
地域連携	CSの機能を活かし、生徒・保護者・地域に対する積極的な働きかけを進める。	2	1	生徒によるあいさつ運動や花いっぱいプロジェクト、CS新聞、CS委員おすすめの本など、CS委員が生徒と共に活動する場面が増えた。地域や保護者に向けた発信はまだ足りなかった。	2	2	地域への発信については次年度の大きな課題として取り組むべきである。防災に関して避難場運営や各自治会、青少年等での防災訓練等でボランティア部さん以外の生徒の方も参加できる取組を模索したい。今後も、一つ一つの活動を大切にしながら、地域との関わりを深めていくことが重要である。	学校経営協議会がスタートして3年目であるが、地域や保護者への情報提供や発信は少ない。今年度は、学校経営協議会委員が学校の取組に参加する場面が増えたことにより、少しずつ地域と学校のつながりができてきている。地域連携に関しては、防災などの面でも取組課題として捉え、地域の中の学校という意識をもっていただけのように働きかけを行っていく。
業務改善	主任層の教員による進行管理を徹底し、計画的で余裕をもった校務の進行に努める。	3	3	・新たな業務改善事例は特にはないが、日々の進行管理に努め、無駄を排除する取組を継続することで、適切な進行管理が実施できた。	3	3	業務改善に取り組み超過勤務が少ないことは素晴らしい。新たな業務も発生することが予想されるが、常に業務改善を念頭に置いて働き方改革を推進していただきたい。	教師の校務における業務改善は常に課題意識をもって取り組んでおり、大きな成果をあげている。残業時間なども少なく、限られた時間の中で効果的に教育活動を行うことができていく。今後もこのような学校風土を大切にしていこう。